

資源の評価・動向予測によるアサリの漁業管理に関する研究

(予算区分：県単 研究期間：平成 24～26 年度)

担当：水産技術研究所 浜名湖分場 霜村胤日人

【研究の背景とねらい】

- ・ 浜名湖におけるアサリ漁業は地域の重要な産業となっており、平成 21 年には漁獲量は 6 千トンを超えて全国シェア第 2 位を占め、生産金額は 21 億円に達しました。近年の漁獲量は、長期的にみれば比較的高い水準にありますが、短期的にみるとやや減少傾向にあり、資源レベルの低下が懸念されています。(図 1)
- ・ 採貝漁業者は、資源の保護や安定的な水揚げの確保を目的に、漁獲量などの自主制限に以前から取り組んでいます。しかし、その決定方法は感覚的なものであり、必ずしも適正な値とは限りません。また、自主制限下での操業であっても、実際には競争的な要素が強く、操業が一部の漁場に集中し、資源レベルに対して過度の漁獲圧が加わっている可能性があります。
- ・ そこで本研究では、科学的手法により資源の評価及び動向予測を行い、これに基づく漁業管理手法を検討します。

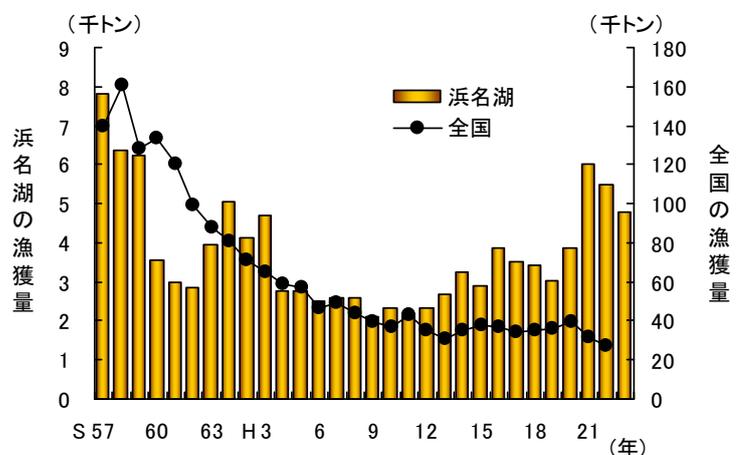


図1 浜名湖と全国のアサリ漁獲量

【期待される効果】

- ・ 採貝漁業者に対して定期的にあさり資源の評価・動向予測（漁獲サイズのアサリが、どこに、どれだけいるか。また、どれだけ獲ってもよいか。）に関する情報を提供することが可能になります。
- ・ これらの情報は、資源レベルに応じた漁場の選択や、漁獲圧の調整などの資源保護の目安としての活用が期待できます。

【年次計画】

細目課題	H24	H25	H26
1. アサリ資源の評価			
漁場の範囲及び面積の把握	○	○	○
漁獲サイズの資源量推定	○	○	○
漁獲加入前サイズの資源量推定	○	○	○
2. アサリ資源の動向予測			
標本船調査による漁場別漁獲圧の把握	○	○	○
ツメタガイの生息量及び食害量推定	○	○	○
短期的な資源動向予測手法の確立		○	○

(作成 平成 24 年 4 月 1 日)